

ナシマルカイガラムシに対する防除効果の高い薬剤

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

1 部門名

果樹 - ナシ・リンゴ - 病害虫防除

2 担当者

佐々木正剛・穴澤拓未

3 要旨

交信攪乱剤を基幹薬剤とした殺虫剤削減防除体系において顕在化してきたナシマルカイガラムシに対する数種薬剤の防除効果について検討した。試験は、計4回の散布暦の中で防除薬剤の組み合わせを変えて行った。

- (1) 果樹に寄生するナシマルカイガラムシの薬剤防除時期は、休眠期(越冬世代)、6月中旬～7月上旬(第1世代)および7月下旬～8月中旬(第2世代)である。
- (2) ナシにおいて3月20日(休眠期)にスプレーオイル30倍を使用した区は、本剤を使用しなかった区と比較して防除価が高く、本剤のナシマルカイガラムシに対する防除効果が認められた(表1)。
- (3) ナシにおいて7月3日にアブロードフロアブル1000倍を使用した区は、本剤を使用しなかった区と比較して防除価が高く、本剤のナシマルカイガラムシに対する防除効果が認められた(表1)。
- (4) リンゴにおいて3月18日(休眠期)に石灰硫黄合剤10倍を使用した区では防除価が低く、本剤のナシマルカイガラムシに対する防除効果は認められなかった(表2)。
- (5) リンゴにおいてリンゴワタムシ防除に使用したダントツ水溶剤3000倍とウララDF2000倍では、ダントツ水溶剤がナシマルカイガラムシに対しても優れた防除効果を示した(表2)。
- (6) 以上より、供試薬剤の中でナシマルカイガラムシに対する防除効果が認められた殺虫剤は、休眠期のスプレーオイル30倍、生育期のアブロードフロアブル1000倍とダントツ水溶剤3000倍であった。

表1 ナシのナシマルカイガラムシに対する防除効果(平均値、2008)

試験区	供試樹数	調査果数	供試薬剤および散布時期				ナシマルカイガラムシ		
			3月20日	7月3日	8月4日	8月27日	被害果率	±SD	防除価
A	4	587	機械油	アブロード	スカウト	スカウト	1.8	1.5	96.1
B	4	523	機械油	-	ネオニコ	ネオニコ	1.2	1.0	97.4
C	2	314	-	アブロード	ネオニコ	ネオニコ	3.4		92.6
D	3	466	-	-	ネオニコ	ネオニコ	15.2	4.1	66.7
無処理	4	638	-	-	-	-	45.7	33.4	-

試験場所: 果樹研究所病害虫科、「豊水」20年生

調査方法: 9月16日～20日に収穫した全果実の被害果数を計数

機械油: スプレーオイル30倍、アブロード: アブロードFL1000倍、スカウト: スカウトFL2000倍

ネオニコチノイド剤: アクタラWDG2000倍、バリアードWGD4000倍、モスピランSE2000倍

表2 リンゴのナシマルカイガラムシに対する防除効果(平均値、2008)

試験区	供試樹数	調査果数	供試薬剤および散布時期				ナシマルカイガラムシ		
			3月18日	6月12日	7月3日	7月15日	被害果率	±SD	防除価
A	3	543	石灰硫黄	-	アブロード	-	38.5	23.3	50.6
B	3	507	石灰硫黄	-	-	-	57.4	35.7	26.4
C	2	184	-	ダントツ	-	ダントツ	0.4		99.5
D	3	341	-	ウララ	-	ウララ	80.1	17.1	0.0
無処理	6	728	-	-	-	-	78.0	15.5	-

試験場所: 果樹研究所病害虫科、「ふじ」18年生

調査方法: 11月5日に収穫した全果実の被害果数を計数

石灰硫黄: 石灰硫黄合剤10倍、アブロード: アブロードFL1000倍

ダントツ: ダントツSP3000倍、ウララ: ウララDF2000倍

4 主な参考文献・資料

- (1) 平成20年度福島県農業総合センター試験成績概要(2008)